

下丸子駅周辺地区ランドデザイン（素案）に係る区民意見公募手続（パブリックコメント）に提出された意見要旨及び区の考え方

※「意見要旨」の文言については、趣旨を損なわない範囲で要約又は一部を抽出しています。

下丸子駅周辺地区ランドデザイン			
No.	分類	意見要旨	区の考え方
1	計画全般	<p>全般的に地域住民の理解が得られる計画なのか。</p>	<p>下丸子駅周辺地区の踏切対策とまちづくりを検討するにあたり、令和3年度から令和4年度にかけて「下丸子駅周辺地区のまちの将来を考える会」を開催し、地域の方々からいただいたご意見を踏まえて「下丸子駅周辺地区まちづくり構想」を策定しました。</p> <p>今回の素案作成にあたって、「下丸子駅周辺地区ランドデザイン策定に向けたまちづくり検討会」を開催し、地域の方々からいただいたご意見を参考にしました。</p> <p>このほか、地域でのアンケートや実証実験等を通じ、いただいたご意見も参考にしました。</p> <p>今後も、地域の皆さまからご意見を伺いながら、多くの方にご理解をいただけるよう努めてまいります。</p>
2	目指すまちの姿①	<p>千鳥町駅と下丸子駅は約550mと近く、どちらも利用する区民が多い。特に、池上線利用者が下丸子駅に向かう場合は千鳥町駅で降車する動線が重要となる。しかし、ランドデザインでは両駅間の動線改善に関する記述が不十分で、P43の「これからマップ」には千鳥町駅に関する情報が欠如している。</p> <p>都市基盤整備方針の考えに合わせ、ランドデザインにも両駅のつながり強化や、具体的な動線改善策の明記が望まれる。</p>	<p>ランドデザインでは、P22の図「回遊の軸のイメージ」にあるように、千鳥町駅をはじめとする駅北側への歩行者ネットワークの形成を念頭に置いた施策を掲げております。これを踏まえ、都市基盤整備方針において、歩行者ネットワークの考え方や都市基盤整備の将来イメージを検討しました。</p> <p>ご意見を踏まえ、今後駅周辺の道路や駅前広場等の検討を深度化していく中で、両駅間の動線についても考慮してまいります。</p>

下丸子駅周辺地区グランドデザイン			
No.	分類	意見要旨	区の考え方
3	目指すまちの姿①	<p>ありがちな駅前ロータリーが整備されてしまう危惧を感じる。当地区のコミュニティバスは40分に1本程度で定員15人と極めて小規模で、多くの人のニーズを満たすわけでもないバスのために、駅前広場にバス1台分のスペースが固定されてしまうのはもったいないと思う。タクシーもスマホで呼び出す時代に移行しており、タクシープールも不要である。現状の区民プラザ前の区道で自動車の停車空間は確保されているので、駅前広場にロータリーを設置する必要はない。ウォークアブルなまちづくりというビジョンがあるので、駅前に車のためのスペースを広く取るのではなく、歩行者空間や人の憩いの場を確保してはどうか。</p>	<p>当地区における公共交通機関の利便性向上のため、駅前広場における交通結節機能の整備は必要不可欠であると考えております。その形状については、駅周辺の道路ネットワークも含めて今後検討を進めてまいります。ご意見のとおり、グランドデザインでは、「ウォークアブルなまち」を目指す姿として掲げておりますので、歩きたくなる、くつろぐこともできる空間の創出に向けた検討をあわせて行ってまいります。</p>
4		<p>駅から下丸子4丁目までの動線も開発してほしい。道幅が狭く自転車が通行するのも危険である。ケヤキ並木のように新しく植樹できないか。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、植樹も含めて歩行者環境の充実や自転車と歩行者が共存できる通行空間の確保に取り組んでまいります。</p>
5		<p>下丸子は地域資源がとても豊富なエリアなので、P29「当地区の地域資源を巡る回遊ルートを地域が主体となって考案します。」は、地域の方々のまちづくりへの参画意欲を促す良い取り組みである。快適で移動しやすい回遊ルートになるよう、歩道環境の改良や商店のファサード整備など、道路・景観整備にも併せて取り組むことが重要である。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、歩行者が円滑に移動でき、快適に過ごせる道路空間の整備を進めてまいります。</p>
6		<p>踏切解消のために、下丸子駅を立体化することに反対する。</p> <p>現在の下丸子駅の利便性は、改札からすぐに電車に乗れること、多摩川線の本数が多く待ち時間が少ないことである。池上駅が立体化したがるが、乗降に不便であり失敗した良い先例である。同じ間違いをしないため、下丸子駅の立体化には反対する。</p>	<p>下丸子1号・2号踏切は、歩行者や自動車の円滑な通行や安全性に支障をきたしている踏切であることから、平成29年に改正踏切道改良促進法に基づき課題のある踏切として指定されており、これらの踏切の解消が喫緊の課題であると考えています。都市基盤整備方針にも記載しているように、踏切の解消手法としては鉄道の連続立体化が望ましいと考えています。踏切対策と合わせ、駅周辺のまちづくりを一体的に行っていくことで、安心・安全で快適なまちを実現できるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p>

下丸子駅周辺地区ランドデザイン			
No.	分類	意見要旨	区の考え方
7	目指すまちの姿①	「区民プラザ入口」交差点付近は、歩車分離されていない。生活交流ゾーンの道路において、歩車分離を明確にしてほしい。	いただいたご意見を参考に、歩行者の安全な通行空間確保等による通行環境の向上を図り、目指すまちの姿である「居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまち」の実現に向けて取り組んでまいります。
8		下丸子駅北側のコインパーキングは稼働率が高いことを踏まえ、駅北側の地下に大規模駐車場の設置を検討してはどうか。 新空港線の開通に伴い多摩川線沿線や当地区の価値も変化してくると思うので、大規模駐車場で地域活性化を図ってみたい。現状では羽田空港の駐車場の混雑により空港内での渋滞があるため、羽田空港駐車場のサテライトとしての利用が考えられる。空港への送迎や空港施設の利用、展望デッキ利用、多摩川の花見、散歩、各種スポーツなどにも利用されると思う。	道路及び駅前広場の構造については、今回ランドデザインと合わせて策定する都市基盤整備方針も踏まえ、今後さらに検討を深度化してまいります。いただいたご意見については参考にさせていただきます。
9		車通りが多かったり駅が混みやすかったりする。再開発は大変ありがたい。池上のように蒲田ほど大きくなくても便利な駅ビルができてほしい。	いただいたご意見を参考に、目指すまちの姿①でお示したとおり、駅と駅周辺を一体的空間として捉えたウォーカブルで居心地のよい空間の整備を進めてまいります。
10		移動円滑化・バリアフリーはもとより、「ウォーカブルなまち」全体の中でユニバーサルデザインのコンセプトを実現していかなければならない。全体イメージでそれを表せたら良い。P36の「駅前拠点ゾーン」や「生活交流ゾーン」のイラストで、車椅子の方など障がいのある方も含め、誰もが快適に憩い、交流しているイメージを盛り込んだらどうか。	(素案の修正対応) ご意見を踏まえ、P36のイラスト①、③及び鳥観図を修正しました。
11		目指すまちの姿②	商店の利用が増えることにより、新しい発想のお店ができてくると地域の活性化につながると思う。また、駅周辺に大規模駐車場を設け、区の広報により利用促進を図ることが、多摩川線、新空港線の利用を増やし地域の活性化につながると思う。
12	スーパー、ドラッグストア、クリニック、保育所など日常生活に直結する業種を優先的に集積させてほしい。駅周辺で買い物や医療が完結すれば、地域の魅力が高まると思う。		施策①-ウ-②でお示した駅周辺の整備と合わせた生活利便機能の誘導などの取組の参考にさせていただきます。

下丸子駅周辺地区ランドデザイン			
No.	分類	意見要旨	区の考え方
13	目指すまちの姿②	さらに人を呼び込む仕組みよりも、今住んでいる人たちやこれから住む人たちが、まず駅まで出て買い物をしたくなるようなまちにしてほしい。それに伴って回遊ルートやコミュニティエリアに立ち寄りやすくなると思う。	目指すまちの姿①、②及び③の実現に向けた取組の参考にさせていただきます。
14		<p>人が増えたり便利になったりするの是一件であるが、下丸子に暮らし続ける人や日常的に通う人の不利益にならないようにしてほしい。</p> <p>人の往来が増えるということは、治安が悪くなる可能性が上がること・ごみが増えること・災害時の一人当たりの資源が少なくなってしまうこと・道路が劣化しやすくなることにつながる。</p> <p>インフラ整備により治安の改善につながると思うが、元々細い道や暗い道が多い中、公園や賑わいの場よりも、交番や街灯、防犯カメラを増やすなどの現実的で具体的な対策をお願いしたい。</p>	いただいたご意見を参考に、インフラ整備だけでなく、空間の活用方法や維持管理についても検討してまいります。
15	目指すまちの姿③	<p>下丸子駅北側に位置する広大な敷地を有する光明寺は「都市基盤整備方針の対象範囲」に含まれているが、ランドデザインではP46に「地域資源」としてのみ言及され、具体的な連携や再開発計画への反映が不足している。</p> <p>駅周辺環境の改善を図る上で、光明寺の存在は無視できない。今後の再開発計画において、光明寺との一体的なランドデザインの検討を求める。</p>	<p>(素案の修正対応)</p> <p>ご意見を踏まえ、ランドデザインのP28のリード文で「地区内に立地する<u>歴史・文化施設や公園など</u>」と修正しました。</p> <p>歴史・文化資源なども生かしたやすらぎのある空間を創出できるよう、様々なストックの活用を検討し、地域の関係者とも連携してまちづくりを進めてまいります。</p>
16		「様々な地域ストックの利活用」では、まちなかのストックを点として捉えるだけでなく、「回遊ルート」や「ウォーカブルなまち」の中のネットワークを構成する拠点としても位置付けアピールすることで、更に魅力が発信できるのではないかと。	いただいたご意見を参考に、施策③-ウ①において、これらの活動の場も踏まえた回遊ネットワークの検討を進めてまいります。